伝統

田中さや

此の度、ハンドボール部高津クラブの部誌創刊号が発行されるにあたり、何か書くようにと仰せでしたので、十年々の発展を振り返って見て、思い出されるまゝに書き並べさせていただきます。

高津高校に私がお世話になりましたのは昭和二十四年四月ですから、ここのクラブの創設者へ高校三期生〜の方々がニ年生になられた時でした。他の運動クラブと比べて、ハンドボール部だけが、三年生の部員は一人もなく、ニ年生でがっちりと固め居られ、当時は三年生を盛んで占められたクラブで、外から眺めている私の目には、大変なご苦労に写っていました。

当時の高津の体育科は、清水谷とのクラブの優等生・模範生で、写真の現高津非常勤講師〜は清水谷へ行かれ、清水谷から見えた守山先生へ現城東高守友先生〜も二十四年五月に黒山高校に転勤され、森岡先生へ現岡安証券社長〜は御自分の会社でお忙しくて無給の講師となられ、岡本先生は定時制の専任となられ、授業の持ち時間は一週間に四分の一程度、授業をするのは、四月に共に転勤して来た三国丘高校の二人だけでしたが、実に良い指導者を得たことは、つきっきりでのコーチ、村田村田先生へ現ハンドボール部の有ル協会常任理事〜と私のハンドボール部と村田先生の持ち時間は一寸論外なく、従って実際の様子は、顔を見せられる位で、先生ともお忙しくて、前記のようなあり様でしたが、ハンドボールの技術は、チームワークの良いことはもちろんのこと、チームとしてのまとまりさたてはじめて、村田先生はよくまわっていたのでしょう。

位で、ハンドボール部の活動が始まったのは、三年早々に跡地に村田先生は在職されて、その四月に村田先生が南高校へ転任されてからは、ニ十五年早々に村田先生が南高校〜現大阪府立荒木高校〜へ現任されてしまいました。

国丘高校へ転任されてからは、ニ十五年早々に村田先生が南高校〜現大阪府立荒木高校〜へ現任されてしまいました。

後へ島田先生へ現任されてからは、ニ十五年早々に村田先生が南高校〜現大阪府立荒木高校〜へ現任されてしまいました。

そしてその翌年に鳴川先生へ現任されてからは、ニ十五年早々に村田先生が南高校〜現大阪府立荒木高校〜へ現任されてしまいました。

師〜がお見えになり、鳴川先生はバレーボール部の顧問を兼任されてからは、ニ十五年早々に村田先生が南高校〜現大阪府立荒木高校〜へ現任されてしまいました。

をされたのですが、バレーボール部の顧問を兼任されてからは、ニ十五年早々に村田先生が南高校〜現大阪府立荒木高校〜へ現任されてしまいました。

仲々お忙しいさで、バレーボール部の顧問を兼任されてからは、ニ十五年早々に村田先生が南高校〜現大阪府立荒木高校〜へ現任されてしまいました。

以上のように身分でバレーボール部の顧問を兼任されてからは、ニ十五年早々に村田先生が南高校〜現大阪府立荒木高校〜へ現任されてしまいました。

設　以来指導者にはハンドボール部とし恵まれませんでしたが、ては創しかし次から次へと上級生から下級生へ、先輩から後輩へと自分達の手でクラブを造り上げ、自らの手で指導して来たわけです。

これは一朝一夕に出来るものではありませんが、過去十余年間の皆々様の努力により造り上げられて来たクラブの伝統の良さ、即ち、高津の自主的な本当の良さが、クラブ発展の上にも発揮されたわけであります。夏の合宿も創設当時のキャプテンの橋本さん等、社会人となられてからも夕方会社が済むとすぐに学校に来て、夕食后消灯時間までを利用して、ルールの研究や練習法についての話合い、朝は五時から出勤までの時間を利用しての コーチ等、寸暇を惜しんでの指導の姿も何年間か見かけました。

女子のハンドボール部が、八期生の徳美さんや北野さん達の手によって創られる事になった年から私達、ハンドボール部と直接関係するようになりました。それ以来、今日までの間で最も印象深い思い出は、辻本陽え助さんをキャプテンとした昭和三十年の夏、楠木通りを中寺町に入ったお寺での合宿です。

その年の四月、関学に入学以来本格的なハンドボールの練習を始められた榎本秀一郎さん、津田さんの両人を中心に、山中将司さん、岡部正文さん等多数の先輩によるコーチで、辻本・佐竹・金沢・大西・今村・小林・木下・吉川の二年生に、梶原・高田・神元・林の一年生を混えての合宿。

午前四時五十分、「オッキョーレ」の津田さんの声に一斉に跳び起きる時から、一日の生活がはじまります。寝具の片付け、部屋の掃除、ユニフォームに着換え、洗面具を持って、シューズをはいて表の道路に並ぶまでわずか十分、そして午前五時「ファイトレ」の掛け声と共に町に走り出し、数粁の駈足をして学校の運動場へ。体操をして、馬跳・うさぎ跳等、からだじゅうが痛くなるようなことの多い早朝の練習です。

入部して日の浅い吉川さんや林さんの脚がカチカチになって膝が屈らなくなったの脚は、四日目ごろからでしたでしょうか。林さんの脚固くなって、あさえても少しもひっこまないので、「テッキンコンクリートのように固い」といった所から「テッキン」と呼ばれるようになり、現在のニックネーム「テッキン」が始まりました。前田校長先生も、五時半頃にはいつもきまって運動場にお見えになって、まがらない足に手をおさえて努力している傍まで来て、「がンバレ、がンバレ！」と声を掛けて励まして下さったものです。

こうして七時半に第一回の練習を終えてから洗面、つづいて朝食、午前九時より、再び練習開始、十二時の昼食後は、教室や運動場の木陰等、それぞれ涼しい所を求め

この昼寝、三時より第三回目の練習開始、
午後の練習は、全期間中合宿を共に
して下さった先輩に、次々と激励に見える
先輩方も加わって、時には生徒とコーチが
同数位になる時もあるはげしい練習でした。
六時頃やっと練習を終えて、学校の食堂
で夕食をすませて宿舎中寺町のお寺へ帰り
ます。この帰りがまた大変なのです。わずか
の道程を一時間余りもかかって帰る。
ごれたユニフォーム姿で、重い足をひきづよ
りながらとぼとぼと帰る姿は今思い出しも
てもみじめなものです。一番困ったのは上
本町四丁目の電車筋を横切る時でしまわねばならず
なかな青信号の間にわたってやっとお寺に帰り、
い事です。こうしてやっとあ
直ちに浴場に行き、扉を足や肩を揉み、
たためます。八時半頃よりルール研究が始
まります。ひきつづいて反省会です。一年
生から順に全員が一日の生活を振り返って
見て感想を発表するのです。反省会を終えて
ると直ちに寝床を取ります。盛り沢山のスケ
ジュールで九時半には就寝したいのです。
がいつも消燈は十時近くなってしまいました。
昼間の激しい練習に消燈后の話し声など、
どこにも聞けない。今身体をよこたえたか
と思うとたちまち気持良い寝息がスヤスヤ
と聞かれます。唯私一人だけが目を覚まし

ている。こんな忙しい一日の生活の中にも
宿舎では暇をみつけて岡部さんから数学の
宿題を教わったりしている人も何人かあり
ました。

お互にいたわり合い、助け合って規律正
しい生活を一週間続けた事によって、技術
・体力・精神力・チームワーク等は云うに
及ばず、人間性としての多大の収穫を得る
事が出来ました。

一年生の梶原さんは合宿を終えて帰る日
の一日前の一週間は充実したとても良い生活をしました。一
日一日が無駄のない生活をしたので何も
今までは朝も遅く起きていたが、よい習
慣がつくなすことなく一日を過ごしたようになった
から、早く目がさめるようになった。
これから家に帰ってからも早く起き
て勉強が上手になるだろう。充実した一日が過せて幸せ
話しがしたものでとても喜しそうな
顔で話したものでした。

その後、先輩の方々の御指導によって、
高津ハンドボール部はだん〈隆盛の途を
たどり、昨年独乙遠征の日本代表選手を送
る室内競技大会で催された時の全
大阪選抜選手に、我が高津クラブからも、
関西学生ハンドボール連盟理事長の中江さ
んへ同大〉、浅野さん（京大）の二人が選ば
れたのを初めとして、辻本・高田（府大）

服部（関学）・石崎（京大）・林（歯大）さんと現在も各大学で活躍している優秀な人々が多くあります。

最近は浅野さんにとても熱心に、毎日のように指導していただいて居りますが、今年は在学生の部員数が少ないので、一寸寂しい感じがします。十余年間の先輩方の努力によって築き上げられた立派な伝統を傷つけないように、いや、ますます発展・繁栄しますように現在の在学中の人々の努力を望むと共に、高津クラブ（O.B O.G）の隆盛をお祈り致します。

送球

小西 英博

ドリブル……パス……ドリブル……シュート……。グラウンドのはしからはしへ、一つのボールを追ってひたはしる。頭には体力と技術のあらん限りを出しつくしての何十分間かの緊張と躍動とは青年の心をひきつけずにはおかない。ハンドボールクラブの依頼でこの文を草しつつ、心はその頃の、グラウンドを走りまわっている私の姿を追っているのを感じる。その頃――昭和十四年――は「送球」と言っていた。今日のハンドボールが日本へはいってきてまだ間のない頃であった。送球の祖国ドイツからチームが来日して親善試合をしたりしていた。当時の高津中学校は、時の校長羽生（はにゅう）隆先生の教育方針に副って、対外試合をする運動部は全くなく、そのかわり全校生徒が、バスケットボール、バレーボール、フットボール（サッカー）、テニス、送球という五つの種目のどれかに属して週一回、所定の曜日の放課後運動をすることになっていた。先生方もその中のどれかの指導に当たられた。一年は月曜日、